

輸出における現状と課題

鹿児島県は温暖な気候と全国第2位の広大な畑地を活用した野菜生産が盛んな産地で、なかでも、さつまいもの生産量は全国1位である。その仕向け先は主に焼酎やでんぷん用原料であり、青果用さつまいもの割合は1割程度である。JA鹿児島県経済連における青果用さつまいものうち、輸出に仕向ける割合は2%にとどまっている。

海外では品質の高い日本産さつまいもは需要が高く、さらに輸出量を増やすためには、海外で評価が高い「紅はるか」や「安納芋」等焼き芋で人気のある品種の海外仕向けほ場を拡大し、海外ニーズに対応する必要がある。

また、現状の物流体系においては、本会グループのさつまいもだけでは単独でコンテナを確保できず、他の野菜とともに低温リーファーコンテナに混載されているが、さつまいも輸出の最大の課題ともいえる輸送中の腐敗、輸送後の品質低下を防ぐためには、低温に弱いなどの特性を持つさつまいもに適した条件で輸送することが必要である。

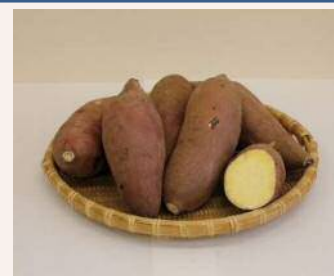
さらに、本会グループの青果用さつまいもの出荷期間は収穫時期の10月頃から翌年3月までと短い上、植物検疫上、さつまいもを輸出できない国も多いが、日本産のさつまいもに対する需要はあると考えており、さらなる輸出拡大を図るため、青果用さつまいもが輸出できない国への輸出可能性の創出と既存取引先との収穫期以外の継続取引機会を作り出すために加工品の開発に取り組む必要がある。



「安納紅（安納芋）」

本会取扱量(R元): 4,000トン

安納紅は一般的に安納芋と呼ばれる。果皮は紅色で、生の状態では果肉は淡黄色だが、加熱すると鮮やかな橙色になる。食感はねっとり系でとても甘みが強く、焼き芋スイーツとして人気がある



「紅はるか」

本会取扱量(R元): 815トン

近年、安定した焼き芋需要のなかでも人気の高い品種。果肉は黄白色で、加熱するとしっとりとした食感であり強い甘さもあるが、後味はすっきりとした上品な甘さが特徴

輸出事業計画の取組内容

1. 海外で人気のある焼き芋用のさつまいも品種「紅はるか」等の県内産地育成が必要である。そのため、輸出に取り組むモデル農家を選定・育成し、モデル農家を基点とした産地育成を図る。
2. さつまいもは低温に弱く、他の野菜との混載では適切な輸送条件を整えられないことから、さつまいも専用にコンテナを仕立てて適正な条件下で輸出することが重要である。一方、本会グループだけではコンテナを仕立てるだけのロットが確保できないことから、全農グループ（JA全農、全農インターナショナル）と連携して、他県産のさつまいもとの混載でさつまいも専用コンテナを仕立てて輸出する物流体系を確立する。
3. 輸出先国との取引を継続、拡大するためには、青果さつまいもが出荷できない時期にも販売できる商品が必要である。また、植物検疫により青果さつまいもを輸出できない国であっても加工品は輸出できることから、さつまいも加工品を開発し、輸出の可能性・選択肢を広げる取組を進めることとする。

取組の方向性

【生産】

- ・紅はるか、安納芋専用産地の育成
- ・焼き芋をはじめとした、さつまいも加工品用途の産地育成

【加工】

- ・焼き芋他の商品開発（県大隅加工技術研究センターとの連携）
- ・保存試験と長期保管の可能性を裏付けるデータの蓄積

【流通】

- ・青果物については、全農グループや他県との連携による専用コンテナ流通体系の確立
- ・輸送時の品質保持対策向上（県大隅加工技術研究センターとの連携）
- ・焼き芋をはじめ、さつまいも加工品の品質等の求評

実施スケジュール

2020年度

2021年度

2022年度

産地計画

計画策定

PDCAサイクルを通じた計画修正

専用産地
育成

紅はるか、安納芋の
専用産地化

輸出専用さつまいも産地の拡大
(南薩・大隅・熊毛地区)

加工技術と
流通の方
法の確立

加工品の
開発と評価
専用コンテナの
流通方法の確
立

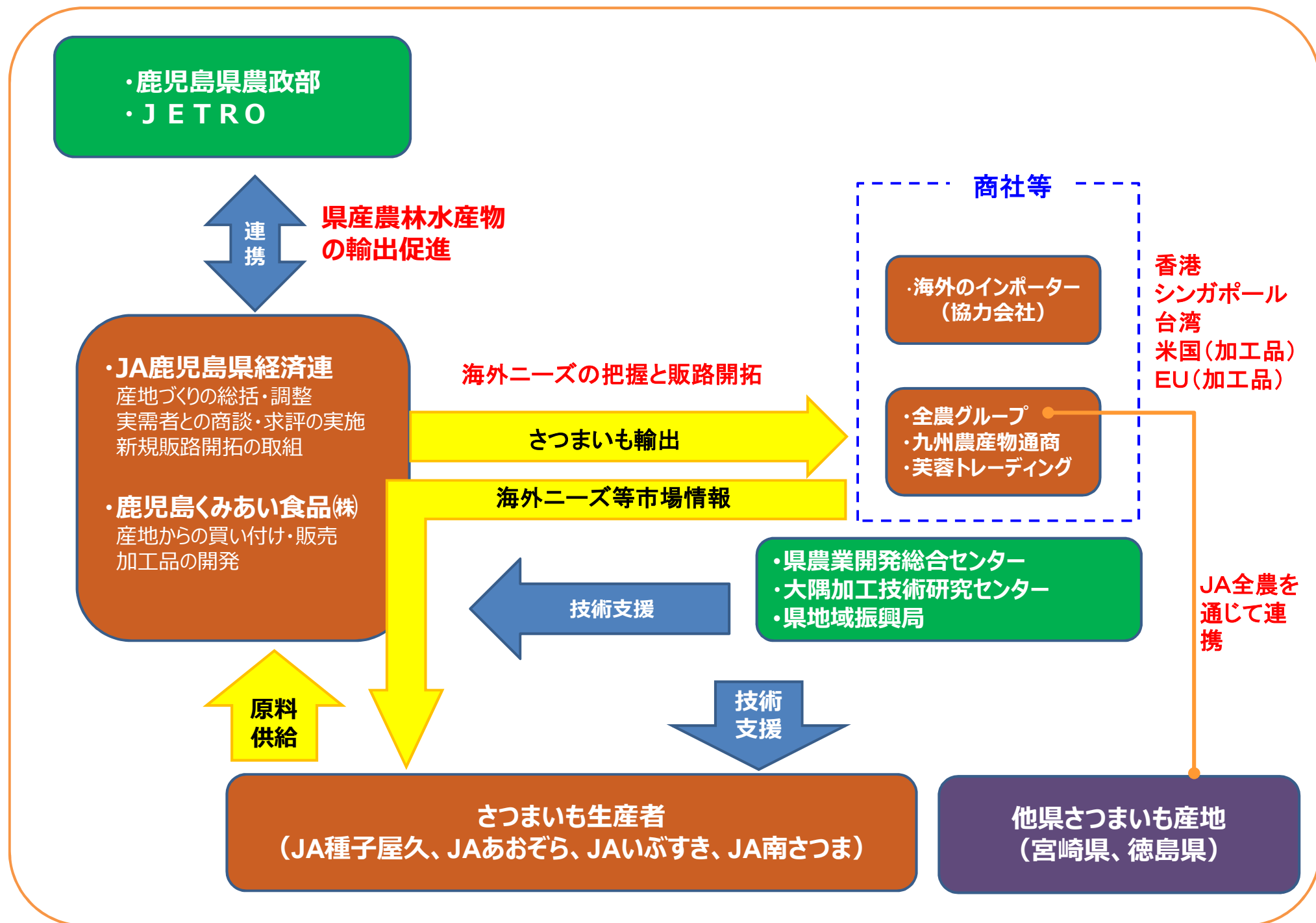
加工品の開発、他県(宮崎・徳島)と連
携したさつまいも(青果)の専用コンテ
ナによる流通方法の確立

品質求評
販路開拓

展示会出展、販
路開拓、商談等
による品質求評

国内外の展示会への出展と新規販路
開拓のための商談を実施
(アジア、米国、EU等)

輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



事業効果の検証・改善

計画の策定 (P)

GFPグローバル産地計画の策定

- ・海外で評価が高いさつまいも品種の検討
- ・生産者の選定
- ・三県合同さつまいも輸出プロジェクトの準備
- ・出荷形態の打合せ

事業の実施 (D)

事業の実施

- ・さつまいも加工品の商品開発
- ・宮崎県、徳島県の3県のさつまいもと混載で専用コンテナによる輸出（香港）
- ・アジアにおける求評と検証
- ・米国、EU等における加工品の求評と検証

評価・検証 (C)

実施事業に対する評価・検証

- ・進捗状況の確認
- ・課題整理
- ・要因分析

改善 (A)

課題の分析・計画修正

- ・輸出者・インポーターとの協議
- ・求評結果の分析
- ・次年度に向けた対策検討
- ・改善のための検討
- ・改善計画の策定

【目標設定】

1. JAあおぞら、JAいぶすき、JA南さつま、JA種子屋久と連携して輸出専用さつまいもの産地化を進めるとともに、全農グループと輸出専用コンテナの輸送体系を確立する。
2. さつまいもの輸出拡大のために、輸出可能なさつまいも加工品の開発に取り組み、さつまいも加工品の輸出拡大に繋げる。
3. アジア、米国、EUにおけるさつまいも加工品の求評（品質評価）を行う。

現状(2019年度)

さつまいもの輸出額：45,000千円

さつまいも加工品の輸出額：0円

輸出先：香港

目標(2023年度)

さつまいもの輸出額：60,000千円

さつまいも加工品の輸出額：3,000千円

輸出先：アジア、米国、EU